

日本選挙学会 ニュース・レター

Japan Election Studies Association

No.25 2002年12月

理事長就任にあたって

小林 良彰

日本選挙学会の理事長就任にあたり、抱負を述べさせていただきます。日本選挙学会も創立22年となり、会員数も500名を超えるようになって、新しい局面を迎えるようになりました。そこで、何よりも日本選挙学会がこれまで以上に「**メンバー・フレンドリーな学会**」となることを目指し、次の二点を今後、二年間の課題として行きたいと思えます。

第一に、日本選挙学会を「**よりオープンな学会**」としたいと思えます。特に、会員の数が増えている現在、より多くの会員が学会との関わりを深く持つことができるようにしたいと思えます。そこで、従来、二年間で一人ずつであった企画委員長と年報編集委員長、文献委員長を、各研究会毎・各年報毎・各文献リスト毎の担当とし、幅広い会員の声に耳を傾けるようにしました。

また、日頃、研究活動を精力的に行っている会員が、自分達の成果を報告する機会を持つことで、初めて公正な競争を行うことができると思えます。その意味で、企画委員長の協力を得て、2003年度研究会から「**ポスターセッション**」を導入することにしました。このことにより、枠の数にとらわれることなく、優れた研究をしている会員の誰もが報告する機会を得ることで、よりレベルの高い競争をして行くことができればと願っております。

さらに、年報編集委員長と共に、レベルの高さを保ちつつ、より多くの会員が研究成果を刊行する機会を持つようにすることができればと考えております。

第二に、会員との間に「**より良いパブリック・リレーションズ**」を創ることにしたいと思います。具体的には、まず会員名簿をCD-ROMによる配布にすることで、コスト削減と共に、変更などに対する迅速な対応をはかりたいと思えます。また、文献委員長の協力を得て、会員の研究業績リストについて、OA化を含めた新しい刊行方式を検討したいと思います。

なお、会員の中には、「良いアイデアはあるが、それを証明する調査データがない」と言う方がおりますので、より多くの会員が調査データを利用できるよう、1993年～1997年の間に七回の調査を行った「**JES データ**」を日本選挙学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jesa/>) で無料で公開しておりますので、ご利用頂ければ幸いです。

この他、河野武司事務局長や事務局幹事の人達と共に、様々な会員の多様な意見をできるだけ吸収して、より良い学会とするよう一生懸命に頑張りますので、会員の皆様のご協力を賜れば幸いです。

(こばやしよしあき・慶應義塾大学教授)

2002年度総会議事録

2002年度の総会は2002年5月18日（土）及び19日（日）に蒲島郁夫前理事長を大会運営委員長として、東京大学で開催されました。

第1日

日時 2002年5月18日（土）12時25分～12時55分

場所 東京大学

1. 理事長挨拶

・1期2年日本選挙学会の理事長を務めた蒲島郁夫理事長から退任と御礼の挨拶があった。

2. 開催校挨拶

・大会開催校を代表して、蒲島理事長・大会運営委員長から挨拶があった。

3. 2002～2003年度理事・監事候補の承認の件 （配布資料参照）

・2001年秋の理事選挙によって、選出された公選理事16名と、その16名によって構成される理事・監事候補者選考委員会によって選出された7名の推薦理事と監事2名の名前が蒲島理事長より紹介され、総会において賛成多数で2002～2003年度理事・監事として承認された（新理事・監事の名前については、本ニュース・レター5ページ以降の「日本選挙学会新役員」の項を参照して下さい）。

4. 「日本選挙学会編集委員会規程」第4条改定の件

・4条に定めてある編集委員会の任期について、「編集委員会の任期は、当該理事会の任期と同じとする」（旧）とする規定を、「編集委員会の任期は、1年とする」（新）とする理事会の決定が報告された。

・その他、「日本選挙学会理事・監事候補者選出規定」及び「日本選挙学会編集委員会規定」中にある「規定」という文言を、「規程」と変更することが報告された。

5. 2001年度決算・監査報告の件

（配布資料参照、2001年度決算の詳細については、本ニュース・レター12ページを参照して下さい。）

・河野武司事務局長による趣旨説明がなされ、西澤由隆及び水崎節文両監事による監査報告の後、経常部分総額¥11,490,426（当初予算¥11,148,452）、特別会計の年報発行準備金¥9,205,369（当初予算¥9,212,598）からなる2001年度決算案が賛成多数で承認された。

・河野事務局長より2001年度の最終会費納入率が、74.4%であることが報告された。

6. 各委員会活動報告

①企画委員会

・砂田一郎企画委員長より退任と御礼の挨拶があった。

②年報編集委員会

・川人貞史編集委員長より、第17号の編集と刊行について、50名以上の協力を得たことに関し、御礼の挨拶があった。

7. 新入会員の件

・18日昼の理事会で新たに入会が承認されたのは14名であること、一方自己都合等による退会が7名であることが報告された。

・上記の入退会により本日現在の会員数は513名（内法人会員1社、休会4名含む）となった。

第2日

日時 2002年5月19日（日）12時25分～12時55分

場所 東京大学

1. 新理事長紹介・挨拶

・蒲島郁夫前理事長から、小林良彰理事が本日昼に開催された新理事会において、2002～2003年度期の新理事長に選任された旨の報告がなされた。
・それを受けて、小林新理事長が挨拶をした。

2. 各委員会委員長・事務局長選出の件

（配布資料参照）

・小林新理事長から、2002～2003年度期の各委員会の新委員長と新事務局長について紹介があった。
2003年度研究会担当企画委員会 神江 伸介

2004年度研究会担当企画委員会 河野 勝
 年報第18号担当編集委員会 加藤秀治郎
 年報第19号担当編集委員会 池田 謙一
 2002年度文献委員会 藤井 徳行
 2003年度文献委員会 岩崎 正洋
 選挙管理委員会 和田 寛伸
 事務局長 河野 武司

・各新任者が挨拶を行った。
 ・河野事務局長から、幹事を委嘱した今井亮佑、鬼塚尚子、河崎健の3会員の紹介があった。

3. 2003年度及び2004年度総会・研究会運営委員長の件

①2003年度の総会と研究会は、金沢大学で開催し、大会運営委員長は同大学の河村和徳理事に委嘱した旨の報告がなされた。
 ②2004年度の総会・研究会は中央大学で開催することが報告され、大会運営委員長（理事予定者）は中央大学関係者から選出することが承認された。

4. 2002年度予算案の件

（配布資料参照、2002年度予算の詳細については、本ニュース・レター13ページを参照して下さい。）
 ・経常部分総額¥12,207,059、特別会計の年報発行準備金総額¥10,207,869の予算案が新事務局より提案され、承認された。

5. 新入会員の件

・19日昼の理事会で新たに入会が承認されたのは5名であることが報告された。
 ・上記の入会により本日現在の会員数は518名（内法人会員1社、休会4名含む）となった。

2002年度総会・研究会報告

2002年度日本選挙学会総会ならびに研究会は、5月18日（土）・19日（日）に、東京大学で開催されました。

第1日目 5月18日（土）

分科会A・B（9時30分～11時30分）

分科会A 比較部会 「大統領選挙と議会選挙」

司会 平野 浩（学習院大学）
 報告1 土倉莞爾（関西大学）
 「循環する諸選挙の終結としての大統領選挙—フランス2002年大統領選挙—」
 報告2 渡邊啓貴（東京外国語大学）
 「2002年大統領選挙」
 報告3 小野恵子（ジョージタウン大学）
 「米大統領選挙と議会選挙、サイクルの再考」
 討論 今村 浩（早稲田大学）

分科会B 地方部会 「第19回参院選挙における小泉効果の実態」

司会 川戸恵子（東京放送）
 報告1 浅海伸夫（読売新聞社）
 「第19回参院選 世論調査にみる小泉効果」
 報告2 久保谷政義（東海大学）
 「2001年参院選 比例候補者の選挙運動の実態 —民主党・ツルネマルティの場合—」
 報告3 中山真一（RKB毎日放送）
 「福岡選挙区に於ける小泉効果の実態」
 討論 名取良太（関西大学）

理事会（11時40分～12時20分）

総会・理事長挨拶（12時25分～12時55分）

分科会C・D（13時00分～15時00分）

分科会C 理論部会「政党組織と選挙」

司会 岩崎正洋（杏林大学）
 報告1 河崎 健（上智大学）
 「政党組織論の理論的系譜
 ～包括政党からカテル政党をめぐる議論を中心に～」
 報告2 佐川泰弘（茨城大学）
 「デュバルジェ以後の政党組織論と現代フランスの政党・選挙」
 報告3 荒井祐介（東海大学）
 「ドイツにおけるカテル政党モデルの妥当性」
 討論 杉本 稔（日本大学）

分科会D 社会心理部会「小泉人気と参議院選挙」

- 司会 川上和久 (明治学院大学)
- 報告1 上杉 隆 (ニューヨーク・タイムズ 東京支局)
「小泉官邸のメディア戦略」
- 報告2 河野武司 (杏林大学)
「小泉人気と参院選報道の内容分析」
- 報告3 森 正 (愛知学院大学)
「小泉人気と投票行動—東海3県データを
を中心に」
- 討論 竹下俊郎 (明治大学)

共通論題「構造改革と選挙」**(15時15分～17時45分)**

- 司会 蒲島郁夫 (東京大学)
- 報告1 小林正弥 (千葉大学)
「日本政治の恩顧主義的構造
—精神構造改革の優先性」
- 報告2 河村和徳 (金沢大学)
「政治争点としての
構造改革と集票構造」
- 報告3 谷藤悦史 (早稲田大学)
「新世紀におけるイギリスの政治改革
—選挙独裁の下での構造改革」
- 討論 福元健太郎 (学習院大学)

懇親会・開催校挨拶 (18時00分～20時15分)**< チムニー >****第2日 5月19(日)****分科会E・F (9時30分～11時30分)****分科会E 国政部会「2001参院選の分析」**

- 司会 小林良彰 (慶應義塾大学)
- 報告1 神江伸介 (香川大学)
「2001年参院選の分析
—サバデータにみる世代別争点意識」
- 報告2 森 裕城 (京都女子大学)
「2001年参議院選挙の得票分析」
- 報告3 西川美砂 (シカゴ州立大学)
「2001年参院選における
政党システムへの選挙制度の影響」
- 討論 田中愛治 (早稲田大学)

**分科会F 歴史部会「政界再編期の選挙と政党
明治期」**

- 司会 酒井正文 (平成国際大学)
- 報告1 小宮一夫 (日本学術振興会特別研究員)
「日清戦争前後の総選挙と対外硬派」
- 報告2 清水唯一朗 (慶應義塾大学)
「隈板内閣下の総選挙
—与党内の候補者調整を中心に」
- 討論1 季武嘉也 (創価大学)
- 討論2 小南浩一 (北陸大学)

理事会 (11時40分～12時20分)**総会・理事長挨拶 (12時25分～12時55分)****分科会G・H・I (13時00分～15時00分)****分科会G 法律部会「首相公選制の
可能性と問題性」**

- 司会 前田英昭 (駒澤大学)
- 報告1 只野雅人 (一橋大学)
「日本における首相公選論」
- 報告2 池田明史 (東洋英和女学院大学)
「イスラエルに於ける首相公選制度
：導入から廃止まで」
- 討論 岡田信弘 (北海道大学)

分科会H 方法論部会「選挙と政治経済」

- 司会 河野 勝 (青山学院大学)
- 報告1 大和田宗典 (慶應義塾大学)
「国政選挙と財政支出に関する実証的
考察」
- 報告2 中村悦大 (京都大学)
「政党選択モデルと経済状況評価
：ベイズ型多項選択アプローチ」
- 討論1 鈴木基史 (京都大学)
- 討論2 和田淳一郎 (横浜国立大学)

分科会I 地方部会「自治体レベルの政治参加」

- 司会 中邨 章 (明治大学)
- 報告1 中條美和 (東京大学)
「国政選挙と地方選挙における
投票参加」

- 報告2 中谷美穂 (慶應義塾大学)
「新しい政治文化 (New Political Culture) の進展
—自治体政策過程の変容」
- 報告3 野口暢子 (学習院大学)
「1990年代のドイツにおける住民投票に
関する議論と運動
—Mehr Demokratie e. V.
を中心として—」
- 討論 佐々木信夫 (中央大学)

分科会 J・K・L (15時15分～17時15分)

分科会 J 制度部会 「政治参加に対する 制度からの影響」

- 司会 堤 英敬 (香川大学)
- 報告1 スティーブン・リット (中央大学)
「The Effect of the PR Tier on SMD
Nomination Strategies in Mixed
Member Systems
: Some Evidence from Japan」
- 報告2 三船 毅 (愛知学泉大学)
「投票制度と投票参加」
- 報告3 鬼塚尚子 (帝京大学)
「政治参加の比較分析
—争点投票を中心として—」
- 討論 品田 裕 (神戸大学)

分科会 K 地方部会 「政界再編期の地方に おける政治過程」

- 司会 谷 聖美 (岡山大学)
- 報告1 白鳥 浩 (静岡大学)
「参院選、知事選、住民投票
—複合選挙の静岡における事例—」
- 報告2 丹羽 功 (富山大学)
「政党地方組織と国政選挙」
- 報告3 豊永郁子 (九州大学)
「政界再編と新選挙制度下の政策過程
—コーポラティスト・シリオの挫折と
福岡選挙区」
- 討論 依田 博 (京都女子大学)

分科会 L 比較部会 「欧米の政党と選挙」

- 司会 砂田一郎 (学習院大学)
- 報告1 秋本富雄 (早稲田大学)
「スコットランドにおける政党制の変容」
- 報告2 前嶋和弘 (敬和学園大学)
「米国の選挙資金改革法案投票の
決定要因分析
—ソフトウェア禁止が与えるインパクト」
- 報告3 渡辺容一郎 (日本大学)
「2001年イギリス保守党党首選挙の分析」
- 討論 富崎 隆 (駒澤大学)

日本選挙学会新役員

2002年5月18日をもって前役員の任期は終了しました。新しい2002年度～2003年度期の日本選挙学会の役員は、以下のようになりましたので、お知らせいたします。

【理事長】

小林 良彰 (慶應義塾大学)

【公選理事】

浅野 和生 (平成国際大学)

荒木 義修 (松阪大学)

池田 謙一 (東京大学)

石田榮仁郎 (近畿大学)

岩渕 美克 (日本大学)

内川 正夫 (武蔵野女子大学)

加藤秀治郎 (東洋大学)

川戸 恵子 (東京放送)

桑原 英明 (常磐大学)

神江 伸介 (香川大学)

小林 良彰 (慶應義塾大学)

田中 愛治 (早稲田大学)

谷 聖美 (岡山大学)

中野 邦観 (尚美学園大学)

中邨 章 (明治大学)

和田 寛伸 (秋田経済法科大学)

【推薦理事】

油川 洋 (尚絅女学園短期大学)

岩崎 正洋 (杏林大学)

川人 貞史 (東北大学)
河村 和徳 (金沢大学)
河野 武司 (杏林大学)
竹下 俊郎 (明治大学)
藤井 徳行 (兵庫教育大学)

【監事】

平野 浩 (学習院大学)
森脇 俊雅 (関西学院大学)

各委員会役員・委員

2002年5月18日をもって各委員会の前役員の任期は終了しました。新しい2002～2003年度期の各委員会の委員長及び委員、また事務局は、以下のようになりましたので、お知らせいたします。

【委員長・副委員長】

2003年度研究会担当企画委員長 神江 伸介 (香川大学)
2004年度研究会担当企画委員長 河野 勝 (青山学院大学)
年報第18号担当編集委員長 加藤秀治郎 (東洋大学)
年報第18号担当編集副委員長 谷 聖美 (岡山大学)
年報第19号担当編集委員長 池田 謙一 (東京大学)
年報第19号担当編集副委員長 酒井 正文 (平成国際大学)
2002年度文献委員長 藤井 徳行 (兵庫教育大学)
2003年度文献委員長 岩崎 正洋 (杏林大学)
選挙管理委員長 和田 寛伸 (秋田経済法科大学)

【企画委員会】

・2003年度研究会担当

荒木 義修 (松阪大学)
内川 正夫 (武蔵野女子大学)
川上 和久 (明治学院大学)
河村 和徳 (金沢大学)
田中 愛治 (早稲田大学)
堤 英敬 (香川大学)
富崎 隆 (駒澤大学)
東川 浩二 (金沢大学)
増山 幹高 (成蹊大学)
森 正 (愛知学院大学)
森脇 俊雅 (関西学院大学)

・2004年度研究会担当

浅野 和夫 (平成国際大学)
石生 義人 (国際基督教大学)
河田 潤一 (大阪大学)
小林 秀高 (東海大学)
名取 良太 (関西大学)
真柄 秀子 (早稲田大学)
安野 智子 (中央大学)
ステイブソン・リード* (中央大学)

【年報編集委員会】

・第18号編集担当

池谷 知明 (拓殖大学)
伊藤 光利 (神戸大学)
石上 泰州 (平成国際大学)
河崎 健 (上智大学)
川人 貞史 (東北大学)
楠 精一郎 (東洋英和女学院大学)
阪野 智一 (神戸大学)
谷藤 悦史 (早稲田大学)
日笠 完治 (杏林大学)
平野 浩 (学習院大学)

・第19号編集担当

稲葉 哲郎 (一橋大学)
今井 亮佑 (東京大学)
岡田 信弘 (北海道大学)
品田 裕 (神戸大学)
鈴木 基史 (京都大学)
武田 興欣 (青山学院大学)
三船 毅 (愛知学泉大学)
山田 真裕 (関西学院大学)

【文献委員会】

・2002年度担当

岩崎 正洋 (杏林大学)
小河 達之 (岡山大学)
小南 浩一 (北陸大学)

・2003年度担当

木暮健太郎 (杏林大学)
進邦 徹夫 (杏林大学)

藤井 徳行（兵庫教育大学）

【選挙管理委員会】

清水 洋雄（秋田経済法科大学）

吉野 篤（秋田経済法科大学）

【事務局】

- ・ 事務局長 河野 武司（杏林大学）
- ・ 事務局幹事 今井 亮佑（東京大学）
鬼塚 尚子（帝京大学）
河崎 健（上智大学）

各委員会からのお知らせ

【企画委員会から】

2003年度の企画を総括しております神江伸介です。企画委員12名を代表しましてご挨拶申し上げます。今年から企画委員会の任期は1年間となりました。短い任期でより内容の豊かなものになるよう努力しなさいと言われたと受け止め、がんばっております。

2003年研究会は5月17、18日に金沢大学で開かれることになっております。企画委員会もそれに向けて企画を練り上げつつあります。時間は、第一日目が10:00から18:15と、二日目が9:30から16:45までとなっております。初日の18:30から懇親会で北陸の山海のものを楽しみ友誼を深めていただきたいと思います。パネルは、共通論題と11の分科会、そして来年から新しく開催されるポスターセッションによって構成されます。このセッションは、小林新理事長の提案によって導入されることになりました。従来、自由論題としていた会員の自由応募の枠を広げて、年々多くなってゆく会員の研究会参加に対応しようとするものであります。時間枠も二日目の午後を、そのためにだけ確保してあります。更に、台湾の政治大学の方々がまとまって入会され、何人かが分科会で報告される予定です。選挙学会の国際交流も進んできており、学会交流事業として何ができるか考えてゆかねばなりません。

今回の研究会の共通論題は、90年代のアメリカの選挙を取り上げます。日米では大きな選挙がないなかで、一定のまとまりを持った期間を取り上げ、特徴付けるという作業が可能となりました。個人的には、90年代はソ連・東欧の消滅という世界的な事件にアメリカの選挙がどう対応したのか、21世紀に入ってインターネットが本格的に導入され選挙運動も変化の様相をみせてゆくなかで、これに先立つ運動を見る最後の機会としてどう展開されてきたのか、興味が尽きません。各分科会では、ネット利用層と選挙、小選挙区比例代表制の国際比較、議会制度の理論と実証、1990年代アメリカのゲリマンダーリング、統一地方選の意義と課題、地方選挙の事例研究・地域間比較、ヨーロッパ議会選挙の比較分析、並立制下の投票行動、政治経済学の新動向、地方選挙に対する史的考察、投票行動分析に対する新たな統計的手法の適用（全て仮題です）といった企画が用意されており、バラエティに富む話題で研究会は大いに盛り上がるでしょう。企画委員一同が今一生懸命がんばっておりますのでご期待ください。

報告者の方々にはお願いしたいのは、論文とレジュメの提出であります。96年度の企画から論文・レジュメを提出していただけない場合、報告をお断りすることになっております。司会・討論者にあらかじめ内容を知らせることで、研究会の議論を実りあるものにすることがその狙いです。提出期限については近く依頼状とともにお知らせいたしますので、開催校に迷惑をかけないためにも期限をお守りください。なお、ポスターセッションの報告者には必要ありません。

最後になりましたが、当委員会に対してご意見・ご要望が御座いましたら神江にまでお寄せください。

E-mailアドレスは、konoe@jl.kagawa-u.ac.jpです。では金沢で会いましょう。

（企画委員長・神江伸介）

【年報編集委員会から】

・年報第18号編集委員会

第18号の編集は年報編集委員、執筆者、レフリーなどの方々のご協力により、無事進行しております。

ます。ご協力に感謝いたします。

(年報第18号編集委員長・加藤秀治郎)

・年報第19号編集委員会

年報第19号の編集委員長をすることになっております池田謙一です。先日の10月12日の理事会の席上、19号の論文公募時期を前倒しにした方がよいのではないかというご意見が出、これを前向きに検討させていただいております。12月7日開催の理事会でご承認が得られれば、1月半ばまでに投稿規程を会員の皆様にお送りし、2月中旬を公募締切、原稿締切を学会大会開催頃とし、その後の手順は従来通りに行いまして、翌年2月までに刊行をするという手続きを踏まさせていただきますと考えております。これまでより原稿執筆期間を長く取りたいと存じますので、どうかふるって公募下さいますよう。

(年報第19号編集委員長・池田謙一)

【文献委員会から】

文献委員会では2003年6月を目途に、会員各位の選挙関連の業績目録を編集いたします。ニューズレターの発送にあわせて、業績目録作成のご案内をさせていただくことと「選挙研究業績調査票記入上の注意」、及び「研究業績調査票」の2点を同封させていただきました。記入上の注意事項にしたがい、業績調査票に、2001年1月から2002年12月までの2カ年分の研究業績をご記入の上、文献委員会までご返送いただければ幸甚に存じます。

(2002年度文献委員長・藤井徳行)

【選挙管理委員会から】

2002年5月19日に開催された新理事会において、清水洋雄(秋田経済法科大学)、吉野篤(同)、和田寛伸(同)の3名が選挙管理委員として選出されました。委員による互選の結果、和田が委員長に指名されました。

本学会の2004~2005年度の理事選出選挙は2003年の秋に行う予定です。ご承知のこととは存じますが選挙権・被選挙権の有効は本学会費の完納が条件となっております。2003年7月1日の時点で当該年度を含めて過去年度未納の会員には選挙権

・被選挙権が失効します。ぜひ会員の皆様には会費の未納・既納をご再確認いただきたいと存じます。ご注意をお願いいたします。

(選挙管理委員長・和田寛伸)

理事会だより

【代表派遣について】

本年も昨年に引き続き、日本学術会議が国際交流事業の一貫として実施している国際会議への代表派遣に対する助成を受けることができました。本学会から選出されている第18期学術会議会員の芹澤功会員(元理事長)を、2002年7月16日から19日の日程でドイツのベルリンで開催された国際政治心理学会第25回年次総会へ派遣し、国際交流を深めました。

国際政治心理学会は、政治心理学に関心をもつ研究者間の学際的・国際的交流の促進を目的として設立されている世界学会です。興味のある方は、国際政治心理学会のホームページを参照して下さい。<http://ispp.org/>

【科研費による出版助成】

本学会の年報である『選挙研究』第17号に引き続き、2003年2月に発行予定の第18号に関しましても、日本学術振興会から110万円の出版助成を受けることができました。第19号以降も継続して助成を受けられるよう、申請を行ってまいります。

【各種委員会の設置数と任期について】

従来、日本選挙学会には理事会の下、企画委員会・編集委員会・文献委員会・選挙管理委員会の4つの委員会を設置しておりました。各委員会の任期は当該理事会の任期(2年)と連動しておりましたが、その作業がより余裕をもって行えるよう、企画委員会・編集委員会・文献委員会にしましては、各1年任期で2つずつ設置することにいたしました。

この件については2002年3月9日に開催された理事会で決定され、規程のある編集委員会の関連

条文の変更（旧4条「編集委員会の任期は、当該理事会の任期と同じとする。」新4条「編集委員会の任期は、1年とする。」）も含めて、2002年5月18日に東京大学で開催されました総会にてご報告をいたしております。

2002年度－2003年度の新理事会では、この決定に基づき、企画委員会・編集委員会・文献委員会につきましては、各2つずつ設置していることをお知らせいたします。

【編集委員会規程の追加変更とそれに伴う新編集委員長と新編集副委員長の選任について】

上記のような変更に加え、編集委員会については理事会においてその後さらに検討を行い、2002年12月7日の理事会で以下のように修正すること決定いたしました。

当該理事会で2つの編集委員会を設置することには変わりませんが、委員会の編集作業や会員各位の『選挙研究』への投稿をより余裕をもって行えるよう、編集を担当する号と任期とを以下の条文の変更のようにいたします。

①第3条2項の変更

旧：編集委員長は、理事の中より理事会が選任する。

↓

新：編集委員長は、理事の中より2名を理事会が選任するものとするが、それぞれの編集委員長は、選任した当該理事会が総会によって承認された年度の次年度と及び次次年度に発行する機関誌の編集をそれぞれ担当するものとする。

②第4条の変更

旧：編集委員会の任期は、1年とする。

↓

新：理事会によって設置された2つの編集委員会の任期は、それぞれが選任された日からそれぞれが編集を担当する機関誌の発行までとする。

なお上記の変更によって、2002年度－2003年度理事会は、2004年度末までに発行する『選挙研

究』第20号の編集を担当する編集委員長と編集副委員長とを、新たに選任しなければならないことになりましたが、この新編集委員長と新編集副委員長については、2003年5月に金沢大学で開催される予定の総会までに選任し、会員の皆様にご報告いたします。

【会費滞納者へのお願い】

会費の滞納は、理事選挙、学会報告、年報への論文掲載その他に不利益になることがあります。また学会運営そのものにも支障を来すこととなりますので、過去の滞納分も含め、お支払い下さるようお願い申し上げます。会費納入方法については、最終ページにある「事務局だより」の項をご覧ください。

【新入会員】

昨年度のニューズ・レター発行以降に新たに入会が認められた方は、以下の通りです。本年7月に発行しました名簿にある方は、名前と所属のみを、それ以降の新入会員の方に関しては連絡先も記載してあります。

・名簿記載済みの新入会員

稲葉 哲郎（一橋大学）
今在慶一朗（東北大学）
大坪 力基（杏林大学）
小野 恵子（ジョージタウン大学）
亀 真奈文（慶應義塾大学大学院）
久保 慶一（早稲田大学大学院）
呉 博群（東京大学大学院）
小宮 一夫（日本学術振興会）
境家 史郎（東京大学大学院）
佐藤 哲也（東京工業大学）
大黒 太郎（福島大学）
高木 悠貴（東京大学大学院）
只野 雅人（一橋大学大学院）
陳 儔美（国立政治大学）
寺山 賢照（学習院大学大学院）
唐司 敬史（国士舘大学大学院）
豊永 郁子（九州大学）
中川 暢三（鹿島建設）
中山 真一（RKB毎日放送）

成廣 孝 (岡山大学)
東川 浩二 (金沢大学)
肥前 洋一 (北海道大学)
平林 紀子 (埼玉大学)
前田 耕 (ミシガン州立大学)
峰岸まや子 (長野県看護大学大学院)
山田 康夫 (東京大学大学院)
米谷 寛子 (東京大学大学院)

盛 杏媛 (国立政治大学)

・名簿発行以降の新入会員

上ノ原秀晃 (東京大学大学院)

陳 義彦 (国立政治大学)

逢坂 巖 (東京大学大学院)

陳 陸輝 (国立政治大学)

近藤 則夫 (日本貿易振興会アジア経済研究所)

鄭 夙芬 (国立政治大学)

佐々木信夫 (中央大学)

真田 允稔 (平成国際大学)

游 清 (国立政治大学)

高崎 明 (早稲田大学大学院)

劉 義周 (国立政治大学)

竹中 佳彦 (北九州市立大学)

【退会会員】

堀田 学 (早稲田大学大学院)

昨年度のニューズ・レター発行以降、下記の会員が退会されました。

川島 高峰 (自己都合)
金 政信 (自己都合)
島袋 邦 (自己都合)
田口 精一 (自己都合)
鶴木 眞 (自己都合)
中西 尚道 (自己都合)
平田 眞一 (自己都合)
文 廷翼 (自己都合)
道端 忠孝 (自己都合)
李 鍊 (自己都合)

上神 貴佳

尾野 嘉邦 (ミシガン大学政治学部へ留学中)

長富 一暁 (シェフィールド大学社会科学部へ留学中)

【現在会員数】

上記の異動で、2002年12月初現在の会員数は、
532名 (内法人会員1社、休会中4名含む)と
なっています。

【名簿記載事項の変更】

平野 浩

肥前 洋一 (ペンシルヴァニア大学経済学部へ留学中)

阿高 一男

今在慶一朗

深井 滋子

前田 耕

陳 儔美

村瀬 洋一

峰岸まや子

福元健太郎

2 0 0 1 年 度 決 算 報 告

収 入	支 出
(円)	(円)
前年度よりの繰越金	総会研究会費
5,245,452	467,170
寄付金	委員会・事務局活動費
桜田会	600,000
1,400,000	会議費
科研費	92,513
1,100,000	通信費
会費	448,640
3,507,120	学生アルバイト
年報等売上金	128,200
236,850	謝金
受取利息	80,000
1,004	印刷費
	2,264,820
	文具費
	50,199
	雑費
	4,725
	学会ホームページ制作費
	48,000
	年報発行準備金へ繰入れ
	1,000,000
	次年度への繰越金
	6,306,159
合 計	合 計
11,490,426	11,490,426

年 報 発 行 準 備 金

収 入	支 出
(円)	(円)
前年度からの繰越金	次年度への繰越金
8,202,598	9,205,369
一般会計からの繰入金	
1,000,000	
受取利息	
2,771	
合 計	合 計
9,205,369	9,205,369

2 0 0 2 年（平成 1 4 年）3 月 31 日

以上の通り相違ありません。

監事 西澤 由隆 印
 監事 水崎 節文 印

2002年度予算

収 入	支 出
(円)	(円)
前年度よりの繰越金	総会研究会費
6,306,159	500,000
寄付金	委員会・事務局活動費
桜田会	600,000
1,400,000	会議費
科研費	100,000
1,100,000	通信費
会費	500,000
3,200,000	学生アルバイト
年報等売上金	150,000
200,000	謝金
受取利息	100,000
900	印刷費
	3,000,000
	文具費
	20,000
	雑費
	50,000
	学会ホームページ維持費
	100,000
	年報発行準備金へ繰入れ
	1,000,000
	次年度への繰越金
	6,087,059
合 計	合 計
12,207,059	12,207,059

年報発行準備金

収 入	支 出
(円)	(円)
前年度からの繰越金	次年度への繰越金
9,205,369	10,207,869
一般会計からの繰入金	
1,000,000	
受取利息	
2,500	
合 計	合 計
10,207,869	10,207,869

事務局だより

【会費の納入について】

会費は郵便局を通して納入することができます。
口座番号と会費は以下の通りです。

振込先(加入者名) 口座番号
日本選挙学会 00170-2-31731

年会費

正会員(大学院生以上) : 8,000円

法人会員 : 50,000円

準会員(学部学生のみ) : 2,000円

(会費を納入された方には、該当する年度の『選挙研究』を送付いたします。)

会費の滞納は学会運営に深刻な支障をきたすのみだけでなく、会員間での取り扱いの不公平をもたらします。

過去の会費の滞納状況によっては、学会からの事務連絡や、研究会での報告・年報への投稿資格などが、停止される場合もあります(この措置は、1995年5月21日の理事会で決定し、同日の総会で報告・承認された「会費滞納者の扱いについて」に従います。内容の詳細については、『ニュース・レター』第18号に掲載してあります)。

また当該年度も含めて入会されてからの会費に一年度でも滞納がある場合は、理事選挙における選挙権・被選挙権が停止されます(この措置は、1999年5月22日の総会で報告・承認されました)。

本年度の会費のみならず、過去の年度の会費を滞納されている方には、併せてお支払いいただきますよう何卒お願い申し上げます。

なお、本年度も含めて過去の会費をまだ納入していただいていない会員の方には、このニュース・レターとともに納入状況を別紙にてお知らせいたしておりますが、確認されたい方は、事務局長・河野武司までご連絡下さい(連絡先は右の段をご覧ください)。

【2003年度の研究会・総会について】

2003年度の研究会・総会は、2003年5月17・18日の予定で、河村和徳大会運営委員長の下、金沢大学(石川県)で開催されます。

【事務局への連絡について】

日本選挙学会の事務局は、理事長の所属である慶應義塾大学に所在しておりますが、事務局幹事は以下の4名が務めております。

事務局長：河野武司(杏林大学総合政策学部)

幹事：今井亮佑(東京大学法学部)

鬼塚尚子(帝京大学文学部)

河崎 健(上智大学外国語学部)

学会事務に関することは、上記の4名にお気軽にお尋ね下さい。また住所や所属の変更などがある場合は、事務局長・河野までお知らせ下さい。

なお、郵送でのご連絡は：

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476

杏林大学総合政策学部 河野 武司

電話でのご連絡は：

杏林大学総合政策学部・河野武司

TEL:0426-91-0011 内線2577

FAX:0426-91-5899 (受付)

E-mailでのご連絡は：

tkohno@beige.ocn.ne.jp

まで、いただければ幸いに存じます。

2002年12月

発行：日本選挙学会事務局

河野 武司

〒108-8345

東京都港区三田2-15-45

慶應義塾大学法学部

小林良彰研究室気付

日本選挙学会事務局

TEL/FAX 03-3769-4748 (直通)